

会 長 殿
理事・監事・運営委員 殿
各県自衛隊家族会会長 殿

家族会事 41 号
R7. 10. 6
公益社団法人自衛隊家族会
事務局長 阿部 知己

令和 7年10月「月報」

1 はじめに

未だに夏日がチラホラしておりますが、「暑さ寒さも彼岸まで」、各所で紅葉の兆しが感じられます。「今年は10月が台風シーズンの本番」「秋雨前線との組み合わせで危険」等々、注意喚起の声が聞こえてきます。くれぐれもご用心なさってください。

さて、地域協議会が開催されています。今年度は、3月に防衛省（大臣）、隊友会（理事長）、家族会（会長）間での家族支援に対する協力に関する協定を締結したことを受け、防衛省／自衛隊に望むことについて取り上げていただくよう各地域にお願いしております。

様々な意見をいただいております。本部でとりまとめ、機会あるごとに防衛省／自衛隊にお願いし、共に、わが国の防衛にとって重要な要素である家族に対する支援を充実させていこうと考えております。引き続きのご意見をよろしく申し上げます。

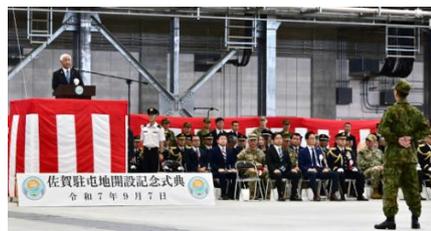
さて、募集協力強調期間の後半に入ります。

新たな募集種目も含め、地道な募集協力が自衛隊の新たな力になります。

引き続きよろしくお願いたします。

2 防衛省・自衛隊の活動（写真は防衛省等 HP 等より）

- (1) 9月7日、中谷元 防衛大臣と金子容三防衛大臣政務官が、V-22オスプレイが配備されている佐賀駐屯地開設記念行事に出席し、隊員を激励しました。



増田自衛隊家族会会長と漆原佐賀県自衛隊家族会会長が列席しました。

- (2) 統合幕僚監部によれば、平成6年度の災害派遣の件数は377県、総活動人員は延べ約46,000人でした。活動内容は①風水害対応に係る派遣、②林野火災の消火に係る派遣、③鳥インフルエンザ対応に係る派遣、④急患輸送であり、最も多いのは急患輸送でした。また、令和6年度に地上において発見された不発弾等の処理件数は1,273件（約37.2トン）海上における爆発性危険物の処理個数は1,249個（約2.2トン）でした。（機雷処理は実績なしとの由。）
- (3) 陸上自衛隊は9月11日から25日の間、令和7年度米海兵隊との実動訓練（レゾリュート・ドラゴン25）を実施しました。担任官は陸自：鳥海西部方面総監、米海兵隊：ターナー第3海兵機動展開部隊司令官で、陸自及び米海兵隊の部隊が、それぞれの指揮系統に従い、共同して作戦を実施する際の相互連携要領を実行動により演練し、日米

の連携強化及び共同対処能力の向上を図ることを目的としています。

実施部隊は北海道の矢臼別演習場等を含め、山口、大分、佐賀、長崎、熊本、鹿児島、沖縄の各県の演習場、駐屯地等の自衛隊施設、在日米軍施設等で訓練を実施しました。



米海兵隊との共同による
特殊武器対処訓練



敵船舶を洋上で撃破する
ヘリ火力戦闘訓練



PFI 船舶への負傷者等の後送及び
船内における応急治療訓練
※PFI (民間資金等活用事業)

3 家族会の活動

(1) 隊員の激励

ア 中央即応連隊（中即連隊）後期教育隊員の激励

9月9日、栃木県自衛隊家族会の古橋会長以下60名は、宇都宮駐屯地の中央即応連隊（連隊長 後藤1陸佐）で後期教育中の隊員を訪問激励しました。気温34℃と、9月とは思えない炎天下、訓練場に作られた不整地にお



ける近接戦闘訓練が行われ、少人数のグループに分かれた隊員たちが塹壕内を実戦さながらに各種想定に対処しながら進みました。どのグループも今年4月に入隊し

たとは思えない敏捷さで行動する様は、流石に中即連隊で後期教育を受けるだけあると感心しました。

課程を修了すると左肩に日章旗のワッペンを付ける事が許され、立派な中即連隊隊員となり、ゆくゆくはジブチでの任務にも就く事となります。

後期学生中5名が栃木県出身であり、その内3名の家族が今回の研修に参加しており、訓練後たくましく成長した隊員と記念撮影を行いました。

訓練研修の後、史料館見学、体験喫食を行い、研修を終えました。

イ 第52次海賊対処行動水上部隊の激励

10月1日、中條神奈川県家族会長、大串事務局長が護衛艦「おおなみ」に、艦長飯尾2海佐、先任伍長岩間海曹長を訪問し、第52次派遣海賊対処行動水上部隊を激励しました。「おおなみ」の派遣は5回目。乗員の1/3以上が複数回の派遣となる精鋭です。海上保安



庁からの8名を含む約200名の隊員の皆様のご活躍を祈念します。(10月4日出発)

ウ 第58次海賊対処行動航空隊の激励

9月10日、青森県家族会 野呂会長と室谷八戸市家族会長が海自八戸航空基地を訪れ、海自第2航空群所属の山越2海佐が率いる第58次派遣海賊対処航空隊を激励しました。(10月15日出発)



(2) 地域議会を開催

ア 北海道地域協議会：8月25日、札幌市で北海道地域協議会を開催しました。

日川北海道地域協議会長をはじめ、北海道地域の各会長事務局長等の役員が参加するとともに、本部から中村地域担当員が出席しました。

ブロック会議では、本部委託テーマの「家族支援に対する協力に関する協定締結を受けて、防衛省／自衛隊に望むこと」、北海道地域の独自テーマとして「各家族会における「家族会の魅力化施策」について、活発な意見交換がなされ、本部からは入隊入校確定者情報の提供に関する協定書、個人情報取扱い等について説明し、その促進について改めて依頼しました。



懇親会には井戸川 井戸川北方総監 北部方面総監、渡邊千歳基地司令、上田余市防備地司令の陸海空各指揮官、各地方協力本部長等の現職や北海道隊友会連合会長等の来賓を含む約40名にご参加いただき、実りある意見交換ができました。

イ 南関東地域協議会：9月2日・3日、横須賀市で南関東地域協議会を開催しました。



森山南関東地域協議会長をはじめ、南関東地域の各県会長、事務局長等の役員が参加するとともに、本部から高田地域担当委員が出席しました。

初日に記念館三笠で開かれた定例会議では、事業報告等及び役員選出等、本部からは家族支援に対する協力に関する協定書、入隊・入校者確定情報の提供に関する協定書、非常勤職員の配置についてお知らせしました。



三笠士官室にて

2日目には陸自武山駐屯地に場を移して星指高等工科学学校長、新田31普通科連隊長の講話を拝聴し、隊員を激励、部隊を見学、体験喫食と盛りだくさんでした。

意見交換会には、上田東部方面総監、真殿横須賀地方総監、藤岡防衛大学校副校長をはじめ各都県の地本長、東方人事部長等も参加し、有意義な時間を過ごしました。



ウ 中国地域協議会：9月4日・5日、米子市で中国地域協議会を開催しました。

吉田中国地域協議会長はじめ、中国地域の各県会長、副会長、事務局長等の役員、関係者が参加するとともに、本部から鍛冶地域担当委員が出席し、自衛隊側からは、橋爪第13旅団長、中尾米子駐屯地司令（陸）、富崎美保基地司令（空）、井上高尾山分屯基地司令（空）、三浦中国四国防衛局総務部長、各自衛隊地方協力本部長他多くの方々にご参加いただきました。



田崎西空司令官

の来賓、橋本中部方面総監部幕僚副長、西脇舞鶴地方総監、鳥取県自衛隊退職者雇用協議会会長、鳥取県隊友会長等が加わり、懇親を深めました。



会議では、本部委託テーマの他、中国地域協議会独自のテーマとして「後継者不足をどう解決する？支部の危機と対策」について討議され、部隊研修等の活動の活発化等多くのアイデアが出ました。その後、田崎西部航空方面隊司令官の「航空自衛隊の概要2025」と題する講話を拝聴して見識を深め、

続く懇親会では、国会議員代理、県知事代理等



米子駐屯地隊員の銃剣道展示



橋本
中方幕僚副長

5日は空自美保基地で航空支援集団第3輸送航空隊等を研修し、多大な成果を上げて終了しました。

エ 九州・沖縄地域協議会：9月8日・9日、熊本市で九州・沖縄地域協議会を開催しま



した。8日は総会と西部方面総監部との連絡会同、意見交換会、9日は健軍駐屯地に所在する第5地对艦ミサイル連隊の新隊員教育を研修しました。光永九州沖縄地域協議会長をはじめ、九州・沖縄地域の各県会長事務局長等が参加するとともに、本部から竹本地域担当委員、自衛隊側から総監部幕僚副長、

人事部長、人事課長、募集課長等が参加して事業報告や役員人事等の審議、意見交換や情報発信を行い、特に家族支援協力について、自衛隊側に対し、安否確認システムの拡充・周知、自衛隊と一体となった活動のために年間を通しての考え方の明示等の要望をしました。総監部からは、生活勤務環境の改善をはじめとする今後の人事施策の紹介の他、募集の取り組みや援護業務等に係る協力の他、隊員を自殺、飲酒運転、特殊詐欺に関わらせない取り組みへの協力が求められました。意見交換会には佐野西部方面総監部幕僚長、根本、吉川両幕僚副長、各地方協力本部長も出席し、家族会関係者相互に理解を促進した他、総監部高官や幕僚に家族会の悩みや各県固有の問題について理解を深めていただきました。



9日は鳥海西部方面総監を訪問して家族会の現状と更なる連携強化の推進にご理解いただき、第5地对艦ミサイル連隊の新隊員教育等を研修して2日間の日程を終了しました。

(3) 自衛隊家族会「問い合わせ窓口」の集計結果（月間報告）

令和7年9月の「問い合わせ」件数について、各自衛隊担当者が直接対応したものはなく、事務局で対応を終了したものは6件であり、合計6件でした。また、問い合わせは、3件が家族会会員からであり、残り3件が家族会会員以外の方からでした。更に分類別では、3件の家族会会員からの相談全てが“家族会に関する問い合わせ”のII分類であり、家族会以外の方からの相談が“相談者や隊員に関する相談”のI分類でした。

I分類の相談の2件がパワハラに関する問い合わせであり、親御さんと同僚の方と述べられる方からの相談でした。相談を頂いた方には、部隊等の相談窓口の紹介や今後の対応要領等についてコーチングを実施しましたが、パワハラの具体的な内容やパワハラを受けているという隊員の所属、氏名等の詳細が明かされず、当窓口としてもそれ以上の解決策を提示するには至りませんでした。実際に深刻なパワハラでないことを祈りますが、「パワハラで職場を辞めたいと言っても辞めさせてもらえない」と言った現在の自衛隊ではおよそ想像できない内容もあり、相談する側と対応する側は掛け合いであり、少ない情報等から相談者が期待する様な回答を確実に提示することは不可能です。

また、I分類の残り1件は、「電話で息子と話をしても怒って直ぐ電話を切られる。息子の言動がおかしい。どこに相談すれば？」という内容でしたが、息子さんがおかしいのか、親御さんの言動を含む親子関係が崩壊しているのかは親御さんからだけの情報では何とも判断できず、通り一遍の対応しか実施のしようがない相談でした。勿論、その親御さんもお困りになって当窓口にご相談されたものであり、丁寧な対応を実施しましたが、前の2件を含めて相談される側としても隔靴搔痒でした。

家族会会員から頂いたII分類2件は、家族会の組織や活動の根拠、自衛隊への依頼の可否等、真摯なご相談であり、事務局で根拠に基づき回答させて頂きました。かようなご相談をされるということは、日頃、会の活動に積極的に関わって頂いているという証左であり、有難いことです。“モヤモヤ”とした疑問を持ちつつ活動されるよりも、積極的に質問を投げかけて頂く方が有難い場合が多いのですが、同じ電話番号でも本部事務局への質問というよりも相談窓口にお問い合わせするという方が質問という行動への敷居が低くなるのであろうと理解しています。

Ⅱ分類残りの1件は、「家族会に入会している意味が不明であり、退会したい」とのご質問であり、それに対して具体的な家族会の活動、そして隊員であるご子息への家族会の貢献について説明させて頂き、その結果、会員継続のご意思を確認させて頂きました。同様の疑問でも、何も言わずに退会される方が殆どであろうと考えますが、この相談によって会員1名の確保が為されたことで、本相談窓口の存在について、改めて家族会として重要な機能であると認識させられました。

4 事務局からの連絡

(1) ボランティア保険料の支払いについて

令和6年10月に契約更新したボランティア保険が令和7年9月末で満期(1年)となりました。各県家族会の保険料支払いにつきましては、事務局からの「保険料請求のご案内」が、お手元に届き、確認を頂いた後に10月～11月28日(金)の間に支払いをお願いします。

(2) 各種希望数の確認について

下記について要望数をそれぞれの時期までに事務局業務担当の梁池へご連絡下さい。

ア 入校・入隊者激励会用「おやばと」(無償配布)

入校・入隊者激励会用「おやばと2月号」希望数を**11月27日(木)**まで
(※9月「月報」で「30日まで」とお知らせしましたが、誤りでした。)

イ 北方領土返還要求署名用紙

令和7年度希望数を **11月27日(木)** まで
(※9月「月報」で「30日まで」とお知らせしましたが、誤りでした。)

(3) 「活動状況等調査」の提出について

家族会本第19号(令和7年4月18日)にて、**令和7年11月4日(火)**を提出期限としてお願いしております。よろしくお願い致します。

(4) オリンピック冬季大会(ミラノ・コルティナダンペッツォ2026.令和8年2月6日～2月22日) 出場隊員等支援募金のお願い。

令和7年度自衛隊家族会事業計画「(公2) 隊員等に対する慰問・激励」に基づき、来年開催のオリンピック冬季大会に出場する隊員等を支援・激励いたします。

出場選手が発表されるのは年明けになるようですが、自衛隊体育学校からは、クロスカントリーやバイアスロンでの活躍が期待されます。

つきましては、次の要領で募金をよろしくお願いします。

- ① 募金額の基準：5千円/県家族会
- ② 募金期間：令和7年12月25日
- ③ 振込要領：口座名：公益社団法人 自衛隊家族会
口座記号番号：00140-9-6014

※ 通信欄に「オリンピック募金」と記載願います。

以上

配布先

防衛省人事教育局長、文書課長、人材育成課長

統合幕僚監部総務部長、総務課長

陸上幕僚監部人事教育部長、募集・援護課長、同総括班長、厚生課長、家族支援班長

海上幕僚監部人事教育部長、人事計画課長、同募集推進室長、厚生課長、

航空幕僚監部人事教育部長、厚生課長、厚生班長、募集・援護課長、募集・援護調整官、
募集班長、

陸上総隊司令部総務部長、

各方面総監部人事部長、募集課長、厚生課長、各自衛隊地方協力本部長

各師団・旅団司令部幕僚長